NIE実践報告

１．タイトル：自分の立場を明確にして相手に伝えよう

２．学校名

東京学芸大学附属世田谷中学校

３．実践者名（代表者名）

佐藤美穂子

４．学年

中学２年生

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

第２学年　１５８名

６．単元（本時の学習課題）名

「人に優しい町づくり」

７．目標(狙い)

・本文を通して、どんな立場の人にとっても快適な町づくりついて考え、各自の意見をもてるようにする。
・自分の考えを書き、投書を通して他人と共有する楽しさを知る。

８．評価の視点

・自分の考えをもち、相手にわかりやすいように工夫しながら文にまとめることができたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「人に優しいづくり」(３時間扱い)
本文の読解(１時間)、新聞の投書を書く際の工夫や注意点の確認(１時間)、投書活動(１時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・教科書の本文を読む際に生徒がはじめに感じたことを大切にする。それまで自分が持っていた当たり前の感覚(歩道橋はみんなにとって便利である、エスカレーターの「片側歩行」は効率のよいシステムである、など)を覆されるような体験をした生徒の新鮮な感覚を重視し、本時を通して丁寧に扱っていきたいものである。
・投書のテーマは「福祉」もしくは「人に優しい町づくり」とした。
・新聞の投書は不特定多数の人が目にするものでもあり、多様な立場の人がそれを目にすることを伝える。特定の誰かを攻撃したり、配慮が不足したりしているものをそのまま投書することがないように教員がしっかり目を通す。
・生徒の家庭でとっている新聞や生徒自身が投書したい新聞は各自違うので、生徒に選ばせた。(教員が特定の新聞への思いを生徒に押し付けないための配慮の一つでもある。)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・自分にとっては便利に感じるものをそう感じない人がいるなんて思ったことがなかった。
・今度は自由なテーマで投書してみたい。
・自分の投書が本当に載ってびっくりした。

12．成果と課題

[成果]・多くの生徒が既存の価値観を覆す経験となり、投書した文の中には、自分の考えと更に社会への提言が加えられているようなものもたくさんあった。
・投書した記事のうち４名が新聞に掲載されることになり、自分の書いたものや友達の書いたものが実際に公の場で声となり伝えることができ、喜んでいた。
[課題]・新聞社の中には「たくさん届くので先に選んでください」というところもあった。生徒の声が直接届けられない結果になったのが残念である。